

## 下地のチェックと接着の基本

### 下地のチェック ※詳しくは、255～257ページをご参照ください。

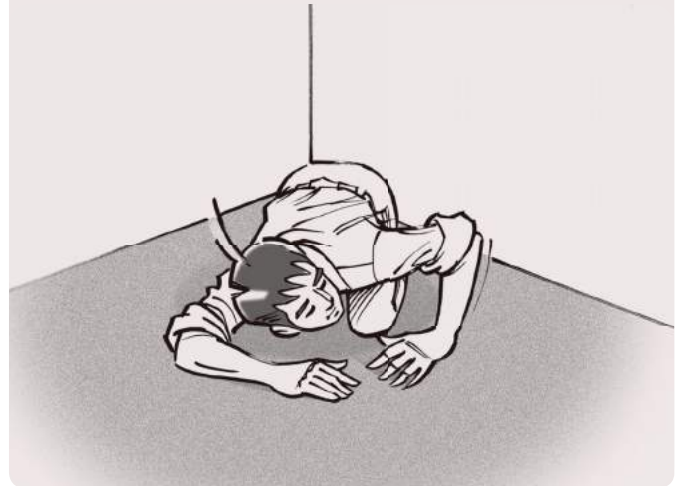
#### 1 乾燥度のチェック

下地が十分に乾燥しているかどうかチェックしてください。



#### 2 平滑度のチェック

平らで滑らかに見えても、意外に凹凸があったり、不陸があるものです。平滑度を十分にチェックしてください。



#### 3 表面強度のチェック

下地の強度がしっかりしていないと、よい施工ができません。強そうに見えても、もろい場合がありますので、チェックしてください。



#### 4 汚れのチェック

汚れが残っている状態では施工できません。汚れを完全に取り除いてください。



## 接着の基本

※詳しくは、258～259ページをご参照ください。

### 1 接着剤は床材および下地に合ったものを選んでください。

使用する床材と下地によって、適した接着剤は異なります。施工する条件に合致した接着剤を選んでください。

### 2 接着材は正しい使い方をしてください。

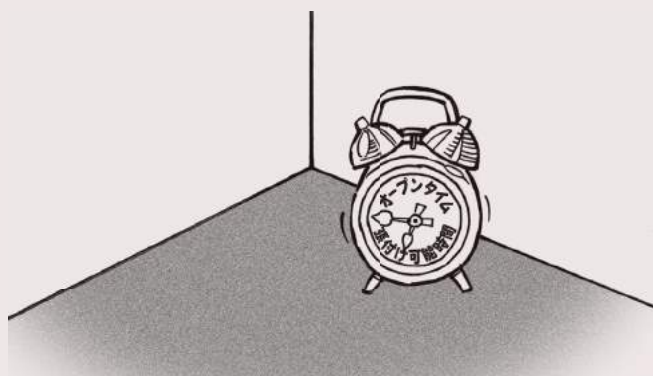
#### 【 攪拌 】

- ① 溶剤形接着剤は分離することがありますので、使用前に十分に攪拌してください。
- ② エポキシ樹脂系接着剤の場合は、別容器で混合・攪拌してください。床の上で直に混合すると、施工後、十分な接着力を得られなかったり、床材が変色(汚染)する場合があります。



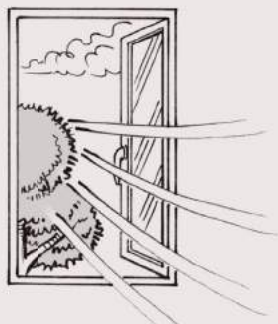
#### 【 時間 】

- ③ オープンタイム(待ち時間)をとり、張付け可能時間内で作業することが大切です。



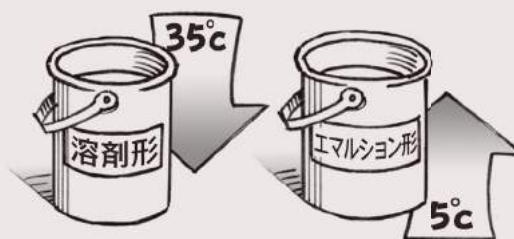
#### 【 換気 】

- ④ 溶剤形接着剤は火気厳禁。引火の危険性がありますので火気には十分注意してください。
- ⑤ 溶剤形接着剤は換気を十分に行なってください。



#### 【 保管 】

- ⑥ 接着剤は正しく保管してください。(5～35℃で保管)特に溶剤形は35℃以下で、エマルジョン形は5℃以上で保管しないとトラブルを生じる危険性が高くなります。



### 3 圧着は十分に行なってください。

強い接着力を得るために、張合わせた後、すぐに“エア抜き”を行ない、ローラーやモップによる“全面圧着”を行なってください。



# 下地の乾燥度と確認方法

コンクリート系下地の場合、下地の乾燥は床材施工において最も重要な条件となります。十分な接着を行なうためには、下地を十分乾燥させなければなりません。次に確認方法を示しますが、いずれも一長一短がありますので、下地条件に合わせて選択するか、いくつかの方法を組み合わせる実施してください。



高周波容量式水分計(ハンディタイプ)  
HI-520-2

## 1 モルタル水分計による方法



### 《測定方法》

選択ダイヤル:「D.MODE」

厚さ補正ダイヤル:「40」

温度補正ダイヤル:「AUTO」

グレード	D.MODE(読み値)	従来の下地水分指標	施工方法目安
I	HI-500 :490未満 HI-520 :440未満 HI-520-2:440未満	8%以下	一般工法
II a	HI-500 :490以上690未満 HI-520 :440以上620未満 HI-520-2:440以上620未満	8~10%	耐水(耐湿)工法推奨
II b	HI-500 :690以上 HI-520 :620以上 HI-520-2:620以上	10%以上	施工不可

## 2 ポリエチレンフィルムによる方法

下地に約1m角のポリエチレンフィルムを敷き、周囲をテープでシールして、約24時間放置後、フィルム内側の状態を観察します。



フィルム内側の状態	工 法
変色していない	一般工法
黒くなっている	耐水(耐湿)工法
水滴がついている	施工不可

## 3 その他の確認法

床材を一晩仮敷きして、翌日、シート下面の状態を見るか、置いてある荷物などを移動させて、その下の状態を見ます。乾燥が不十分な下地は、置いてあった部分とその周囲の下地の色に比べて、黒ずんで見えます。乾燥状態を確認する一応の目安になります。



床の仕上がりの良否は、床材・施工技術とともに下地の状況によって大きく左右されます。したがって、事前の下地点検は、床材の施工にとって重要なポイントになります。特に改修工事の場合は、下地処理・下地補修を伴うことが多いので、入念に行なわなければなりません。各種下地共通のチェックポイント(必須条件)は、次の通りです。点検後、著しい不都合がある場合は、施工前に監督者(施主・設計者・元請)と協議し、補修を行なってから施工してください。

## 各種下地共通のチェックポイント(必須条件)

### 乾燥度はよいか

床材施工では、湿気は大敵。表面は乾いていても十分乾燥しておらず、床材施工後、湿気が上がってくることがあります。立地条件、環境、材令、工法を事前に確認しておく必要があります。

### 平滑度はよいか

不陸、凹凸、ひび割れ、目違い、接合部における突起や凹凸がなく、平滑に施工されているか。

### 表面強度は十分であるか

粉立ちのある場合や、せい弱な下地では、十分な接着力は得られません。所定の接着強度を得るためには、下地も十分な強度を備えていなければなりません。

### 剛性は十分であるか

床面のたわみ、振動などによる下地の障害はないか。下地としての剛性は十分であるか。

### 汚れがないか

接着を妨げるような塵埃、モルタル滓、油、塗料、サビなどが付着していないか。

### 他部材との取り合いは良好か

下地と壁面との取り合い、および踏み込み部の精度はよいか。出入口開口部とのレベル関係は良好か(敷居、くつずりとのレベル、扉の開閉に支障はないか)。

## 下地の種類と条件・下地調整

### 下地の種類とチェックポイント・下地調整

#### コンクリート・モルタル下地

チェックポイント		下地調整
乾燥度	下地の湿気は接着力を低下させ、膨れ、床材の伸縮、剥がれの原因となります。耐水性の接着剤も、硬化するまでは湿気は大敵です。土間床やデッキプレート下地のコンクリートは乾燥に時間がかかるので、材令、工法、環境や立地条件もチェックしておく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未乾燥の場合…十分に乾燥させる(湿気テストを行ない確認のこと)。</li> </ul>
平滑度	不陸、凹凸、ひび割れがないかをチェックします。不陸や凹凸が大きいと床材の表面に現れて仕上がりを見苦しくするばかりでなく、接着剤の塗布がムラとなり、膨れの原因になります。ひび割れをそのままにして床材を施工すると、ひび割れ部にたまった接着剤の溶剤蒸気や下地の湿気で床材が押し上げられ、みみず腫れになることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ひび割れ部…水で希釈したロンバインダー(アクリル樹脂系エマルジョン形プライマー)に少量のポルトランドセメントやロンフローを混ぜて、毛バケや地べらなどを用いて擦込むようにして埋める(一度に埋めようとせず何度かに分けて行なう)。</li> <li>● 凸部…グラインダーによる研磨、またはハツリ処理。</li> <li>● 凹部…ロンフローの硬練りなどの補修材で埋める。</li> <li>● 不陸…ロンフロー(下地補修材)で修正。</li> </ul>
表面強度	粉立ちはないか、表面強度は十分であるかをチェックします。粉立ちは、接着剤の塗布性を悪くするばかりでなく、接着性に直接影響し、膨れ、剥がれの原因となります。ぜい弱な下地は、施工後、車輪通過などの動荷重で破壊されることが多いので、動荷重のかかる床では特にチェックポイントとなります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 粉立ちのある場合…よく清掃後、水で希釈したロンバインダー(アクリル樹脂系エマルジョン形プライマー)を塗布。</li> <li>● ぜい弱な場合…ジョリエースJE-70*1(エポキシ樹脂系溶剤形プライマー)を塗布。</li> </ul>
汚れ	塵埃、モルタル滓、油、塗料などが付着していないかをチェックします。特に油、塗料などは接着性を阻害するだけでなく、後日、床材を汚染することがあるので、十分な注意が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● モルタル滓、塗料…ケレン後、よく清掃。</li> <li>● 下地にしみ込んだ油や塗料…表面を中性洗剤で洗浄・水洗い・乾燥後、ジョリエースJE-70*1(エポキシ樹脂系溶剤形プライマー)またはロンプライマーU(ウレタン樹脂系溶剤形プライマー)を塗布。</li> </ul>

#### 軽量コンクリート下地

吸水させた軽量骨材を使用するため、乾燥に時間がかかります。チェックポイントは、一般のコンクリート・モルタル下地と同様ですが、乾燥度に特に注意してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未乾燥の場合…十分に乾燥させる(湿気テストを行ない確認のこと)。</li> </ul>
---	--

#### セルフレベリング下地(SL下地)

セルフレベリング材には、石こう系とセメント系があります。石こう系は強度も弱く、ビニル床材の下地としては適しません。セメント系は石こう系に比べると強度はありますが、コンクリート・モルタルに比べると弱いので注意を要します。打ち込み厚さの割りに乾燥が遅いので、乾燥度も重要なチェックポイントになります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表面にノロ、白樺、気泡跡が発生している場合…研磨・清掃後、ロンバインダー(アクリル樹脂系エマルジョン形プライマー)を塗布。</li> <li>● 表面強度不足の場合…ジョリエースJE-70*1(エポキシ樹脂系溶剤形プライマー)を塗布。</li> </ul> <p>*セルフレベリング材の水比が過剰であった場合、表面に樹脂分の多い被膜が形成され、プライマーが浸透しない場合があるので注意が必要です。</p>
--	---

※1:推奨品 アイカ工業(株)製

## 木質下地

チェックポイント	下地調整
<p>他の下地に比べて剛性(床面のたわみ。それによって生じる目地の伸縮、突上げ)が問題となりやすいので、注意を要します。下地接合部のすき間、段差、釘頭の出も重要なチェックポイントです。また、下地に防腐剤、防蟻剤が塗布されていると、床材を汚染することがあるので注意してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● たわみが大きい場合…下地補強。</li> <li>● 凸部…グラインダーなどで研磨。釘頭が出ている場合は低めに打ち込んでパテ埋め。</li> <li>● 凹部…パテ埋め(接合部の段差は、凹部を埋めるよりも凸部を研磨する方が良い)。</li> <li>● 防腐・防蟻剤が塗布されている場合…下地との目地をずらして、ベニヤ板で増し張り。</li> </ul>

## 金属下地

<p>凹凸(ビス頭、溶接部など)や、接着の妨げとなる油、サビが発生していないかをチェックします。鉄板下地の場合、必ず防錆塗料を塗布する必要がありますが、種類によっては、接着剤の溶剤で侵されるものがあるので、注意を要します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 凸部…グラインダーなどで研磨。</li> <li>● 凹部…金属用パテなどで埋める。</li> <li>● 油…溶剤などにより脱脂する。</li> <li>● サビ…グラインダーなどにより研磨。</li> <li>● 接着剤の溶剤で侵される防錆塗料…除去して、エポキシ樹脂系またはウレタン樹脂系防錆塗料を塗布する(塗布後、乾燥時間を十分にとること)。</li> </ul>
---	---

## 床暖房下地

<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンクリート埋設型床暖房下地 下地の湿気、ひび割れ(下地は使用温度でチェックする必要があります)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンクリート埋設型床暖房下地…下地の湿気除去、ひび割れ処理が重要なポイントとなります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乾式パネル型床暖房下地 パネルの段差、すき間(下地は使用温度でチェックする必要があります)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乾式パネル型床暖房下地…パネル接合部の処理方法がポイントとなります。</li> </ul>

## 既設床下地(改修工事)

<p>既存床仕上げ材を剥がして張り替える場合と、既存仕上げ材を下地として重ね張りする場合があります。既存床仕上げ材を剥がして張り替える場合のチェックポイントは、新設床下地の場合と同様ですが、平滑度、乾燥度に特に注意してください。</p> <p>既存床仕上げ材を下地として重ね張りする場合のチェックポイントは、既存床の種類により異なりますが、共通事項として下記の事項が重要になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平滑度(既存床の凹凸はそのまま新規仕上げ材に現れます)。</li> <li>既存床と下地との接着性。</li> <li>他部材との取り合い(重ね張りすることにより敷居、くつずりとのレベル。扉の開閉に支障が生じないか)。</li> <li>既存床表面の状態(新規床材を汚染するような汚れや接着性を阻害するような塗料やワックスなどの有無)。</li> </ol>	<p>※改修仕様については、別途お問い合わせください。</p>
--	---------------------------------

## 接着に関する注意点

施工の前には接着剤容器の表示事項および技術資料等をご一読ください。

## 施工する際は次の点にご注意ください。

252ページからの下地のチェックと接着の基本 / 下地の乾燥度と確認方法 / 下地の種類と条件・下地調整の項もあわせてお読みください。

### 1 接着剤の選択

- ①施工する床材に最も適した接着剤を選択してください。②下地の種類と条件、使用条件を必ず考慮して選択してください。

### 2 下地の点検

- ①下地は不陸、目違い、突起、凹凸などがいないか点検してください。  
下地点検の段階では、見落としがちな小さな突起でも、ビニル床シートを施工した後は、目立つことがあります。また、目違いや凹凸は接着不良の原因にもなります。床仕上げ工事に先立ち、不陸、目違い、突起がある場合は、支障のないように補修する必要があります。下地工事を担当している所に、速やかに申し入れをして補修してもらうようにしてください。その際の補修工事が、セメントモルタル塗りのように床仕上げ工事に着手するまでに、硬化や乾燥の期間が長く必要となる場合がありますので、工程の上からも十分に余裕をもった点検を実施し、補修を早めに済ますようにしてください。
- ②下地には、床材の変形を拘束し、また所定の接着強度を得るために十分な強度を持たせることが基本です。  
コンクリートやセメントモルタルの表面は、施工条件によってはレイトンス(遊離石灰)の層が表面を覆い、ぜい弱になっていたり、凍害やドライアウトによる硬化不良やエフロレッセンス(白樺)の析出などをみることがあります。このような場合は、下地の表面が破壊してしまうため、接着力ができません。
- ③下地に付着するじんあい(塵埃)、モルタル、油類、さびなどは除去してください。  
これらも接着不良の原因となります。
- ④下地は十分乾燥してください。  
下地に水が含まれていては接着力を低下させ、かつ水蒸気により局部的な床仕上げ材の膨れをまねいたり、床仕上げ材によっては含水による変形をまねきます。
- ⑤床仕上げ材施工後に、水分または湿気の上昇が予想される箇所には、防湿層を設けてもらうようにしてください。  
土間床では、地下水、川や下水との位置関係によって、更に敷地の傾斜によっては、これらの影響で床仕上げ材施工後、水がにじんできたり、水蒸気が上昇してくるので、つねに湿潤な状態におかれることがあります。湧水ピットや受水槽、蓄熱槽の上の床についても、同様な現象がみられます。これらの水分を遮断するためには、防湿層は欠かせません。

### 3 接着剤の塗布

接着剤の塗布は、必ず付属のクシ目ゴテを使用してください。  
使用中にすり減ったクシ目は、細かい三角やすりで目立てを行ない、所定の寸法に整えてご使用ください。



### 4 床仕上げ材の張付け

接着剤一覧表や、接着剤の缶に表示されているオープンタイム、張付け可能時間を参考にして床材を張付けてください。ただし、オープンタイムや張付け可能時間は、接着剤の塗布量・下地(吸湿性)・温度・湿度・通風量など施工環境によって変わりますので、塗布した接着剤の乾燥状態を実際に確かめながら床材を張合わせてください。オープンタイムの取り方が短すぎると膨れが出やすく、長すぎると十分な接着強度が得られません(オーバータイム)。



### 5 圧着

床仕上げ材を張付けた後は、エア抜きを行ない、100ポンドローラーによる全面圧着を行なってください。

参考写真:リノリウムローラー45(ヤヨイ化学販売株式会社製)



### 6 養生

接着力が十分に発現するまで、養生してください。急激な温度変化に注意し、台車の移動など荷重の負担もできるだけ避けてください。

#### ※接着剤使用上の注意点

有機溶剤やその他の成分による人体への健康障害を防止するため、接着剤を使用するに当たっては、ガスの吸入や皮膚接触がないように注意してください。接着剤の缶に表示してある注意事項や労働安全衛生法による注意点をよくお読みください。(品名ごとの注意点の詳細は240~243ページ参照)

## 接着剤を保管する際には、次の点にご注意ください。

### 1 保管量(消防法による)

溶剤形接着剤は、含有する有機溶剤の引火による火災の危険性から、一か所の貯蔵限度量が溶剤の種類や引火性の程度別に次のように規定されています。

	品名	指定数量		該当物質の例	危険等級	
第4類	特殊引火物	50ℓ		ジエチルエーテル・アセトアルデヒド	I	
	第一石油類	非水溶性液体	200ℓ	ガソリン・トルエン・酢酸エチル	II	
		水溶性液体	400ℓ		アセトン・メチルエチルケトン	II
	アルコール類	400ℓ		メチルアルコール・エチルアルコール・プロピルアルコール	II	
	第二石油類	非水溶性液体	1,000ℓ	灯油・軽油・キシレン	III	
		水溶性液体	2,000ℓ		酢酸・ギ酸イソアミル	III
	第三石油類	非水溶性液体	2,000ℓ		重油・クレゾール・アニリン	III
		水溶性液体	4,000ℓ		グリセリン・酪酸	III
第2類	第四石油類	6,000ℓ		ギヤー油・シリンダー油	III	
	引火性固体	1,000kg		固形アルコール・その他	III	

※指定数量以下であっても、この数量の1/5を超える場合は、市条例等によって規制を受ける事があります。所轄消防署への確認が必要です。

### 2 保管場所

風通しのよい冷暗所に保管してください。

接着剤	溶剤形接着剤	エマルジョン形接着剤	反応形接着剤(エポキシ樹脂系・ウレタン樹脂系)
保管	5~35℃での保管	5~35℃での保管	5~35℃での保管(多湿を避ける)。

※エマルジョン形接着剤は氷点下で凍結する可能性がありますのでご注意ください。

### 3 使用残の接着剤

一度出した接着剤は容器に戻さないでください。原則として、開封後は使い切ってください。

### 4 保管期間

表示の有効期間中に、できるだけ早く使い切ってください。



# フロアメンテナンス(床シート・タイル)

床材に合ったワックスによるメンテナンスを行なってください。日常、適切なメンテナンスがなされていれば、ほとんどの汚れは掃き掃除と、固く絞ったモップによる水拭きだけで落とすことができます。一般に、汚れは時間の経過と共に落ちにくくなりますので、できるだけ早いうちに落とすように心がけてください。また砂粒などによる損傷を避けるために、建物の入口に大きめの防塵マットを敷き、外から砂を持ち込まないように配慮してください。

## 日常の手入れ

- ① ゴミ、砂等は床材表面に傷をつけることとなりますので、ホウキ、掃除機等で取り除きます。
- ② 塵埃等は、固く絞ったモップで水拭きするか、化学雑巾で取り除きます。
- ③ 汚れがひどい所は、洗浄剤「ワイブノン」を用い、ポリッシャーまたはブラシ等で取り除きます。
- ④ ワックスが摩耗している所にはワックスを再塗布します。
- ⑤ 洗浄剤で取り除けない場合は、古いワックスを剥離剤「ハクリスターPRO 8」で取り除き、再度ワックスを塗布します。

## 表面洗浄

全体的に汚れが目立ち始めたら実施します。

- ① ゴミ等をホウキ、掃除機等で取り除きます。
  - ② 「ワイブノン」を汚れの程度に応じて水または温水で10～120倍に希釈します。
  - ③ 専用モップでたっぷり均一に塗布し、ポリッシャー(青または緑パッド使用)またはブラシ等で汚れを取り除きます。
  - ④ スクイジーまたはウェットバキュームクリーナーですみやかに汚水を回収し、乾かないうちにきれいなモップで十分に水拭きして、汚水を完全に拭きとります。
  - ⑤ 床面を十分に乾燥させます。
- ※屋外用防滑性床シートは、汚れの堆積が進むと強い変色の原因になるので注意してください。

## 剥離洗浄

汚れがワックス皮膜の表面だけでなく、内部に抱き込まれたり、皮膜が黄変したり、粉化したときに実施します。

- ① ゴミ等をホウキ、掃除機等で取り除きます。
- ② ワックス剥離剤「ハクリスターPRO 8」を水または温水で5～10倍に希釈します。
- ③ 専用モップでたっぷり均一に塗布し、ワックス膜が分解するまで5～10分間放置します。
- ④ ポリッシャー(緑、茶または黒パッド使用)でワックス膜を完全に除去します。※ロンリウムなどのソフトな床材には、緑または茶パッドの使用をお奨めします。
- ⑤ スクイジーまたはウェットバキュームクリーナーですみやかに汚水を回収し、乾かないうちにきれいなモップで十分に水拭きして、汚水を完全に拭きとります。
- ⑥ 床面を十分に乾燥させます。

## ワックス塗布

- ① 床面を「ワイブノン」や「ハクリスターPRO 8」で汚れや古いワックス膜を完全に除去し、十分に洗浄後、床面を乾燥させます。
  - ② ワックスを専用モップで塗り残しのないように均一に塗布します。約30分で乾燥しますが、重ね塗りの場合、60分以上の乾燥をお奨めします。塗膜の乾燥が進み、耐久性が向上します。
  - ③ 歩行量の多い場所や長時間効果を維持するには、2～3回重ね塗ります。
- ※ 防滑性床シートにワックスを塗布しますと、防滑性が低下する場合がありますので、ノーワックスメンテナンスでの使用をお勧めいたします。
- ※ 耐薬品性床シートにワックスを塗布しますと薬品によりワックスが変色・変質する場合がありますので、ノーワックスメンテナンスでの使用をお勧めします。耐汚れ性を重視する場合、ワックスを塗布することは可能です。ワックスが変色・変質した場合、剥離・再塗布することで美観が回復します。
- ※ 抗菌性床材には抗菌性樹脂ワックスを、帯電防止および導電性床材には帯電防止性樹脂ワックスをご使用ください。

## 使用上の注意

### 1 泥よけマットを設置

水濡れや砂が飛散した状態では、滑りやすくなり、転倒事故を招く可能性があります。泥よけマットの設置など雨水や土砂の持ち込みを防止、持ち込まれた際には除去するようにしてください。



### 2 剥がれなどはすぐ連絡



床シート、床タイルに剥がれ、反り、膨れなどが生じた場合は、専門業者に連絡をして、補修してください。放置しておく、全体に影響が及び、美観を損なうほか、転倒事故の原因となります。

### 3 焼け焦げに注意

床シート、床タイルのほとんどの製品がタバコの火により、焦げ跡を生じます。投げ捨てや踏み消しをしないよう注意を喚起してください。



### 4 OAフロアでは



OAフロア用タイルのメンテナンス時には水・洗浄剤・剥離剤を大量に使用しないでください。床材の目地から水等が入り込み、床下の配線に悪影響を及ぼすことがあります。

### 5 詳しい資料を読んで

機能性床材については特別な注意点がありますので、それぞれのカatalog、技術資料等を参照してください。(各種資料請求は弊社営業担当者にお申し付けください。)



## 6 ワックスのあとは

ワックスは床材に塗布後、完全に乾かしてください。乾く前に什器や備品を置くと、ワックスによって張り付き、動かした時に床材と一緒に剥がれることがあります。



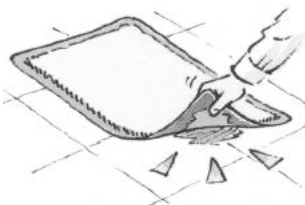
## 7 指定のメンテ材を



メンテナンスの際は、ロンシール指定のメンテナンス材をご使用ください。

## 8 褐色に汚れたら

ゴムタイヤや家具の脚ゴム、ゴムマットなど一部の製品によっては、床面が褐色に汚染する(ゴム汚染)場合があります。非汚染タイプのゴムに変更するか、床シートがこれらのものに直接触れないよう、保護板を敷いてください。



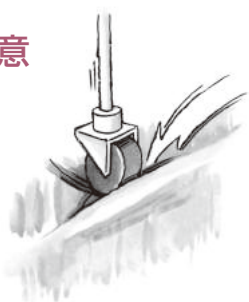
## 9 無理な移動は×

重量物の無理な移動によって、床材の表面を傷つけたり、膨れを発生させる可能性があります。強くこすったり、ひきずったりしないようご注意ください。



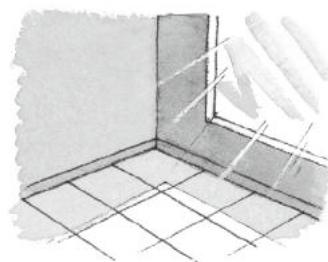
## 10 キャスターに注意

キャスターの往来により、ねじれ、ズレ、ひねりの負荷が生じ、床材の破損や、下地や接着剤の破損による、ふくれ、剥がれが生じる可能性があります。乾燥した強い下地に、使用に適した床材および接着剤を使用してください。

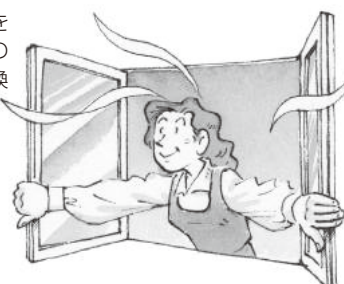


## お願い

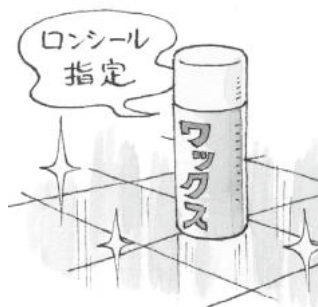
1 接着剤が十分に硬化するまでは、直射日光や冷暖房による急激な温度変化、重量物やキャスター椅子などによるしごきなどは避けてください。突き上げ・目地すき・膨れなどを発生させる可能性があります。



2 施工直後の床シート、床タイルは素材固有の匂いを有しています。有害物質の放出ではありませんが、換気に心掛けてください。



3 メンテナンスは、必ずロンシール推奨のワックスをご使用ください。ワックスはシート、タイルの汚れを防止、美観を保持します。



4 長時間直射日光が当たる場所では変色する可能性があります。カーテン・ブラインドなどで日よけてください。



5 ハイヒールや家具などの局部荷重により、へこみあとが残る可能性があります。



# フロアメンテナンス(ノーワックス床シート・タイルカーペット)

## ノーワックスシリーズ

建物の場所や環境により汚れの程度が違いますので、状況に応じて清掃のやり方を変える必要がありますが、床面を美しく保つには、毎日の清掃が大切です。ノーワックスシリーズは汚れが付きにくく、除去しやすいのでダスタークロスやモップによる清掃できれいな床面を維持できます。

### 日常の手入れ

- ①ダスタークロスや水を固く絞ったモップなどにより床材表面の砂やホコリを除去してください。
- ②床面に付着したヒールマークなどの汚れで落ちにくい場合には、中性クリーナーを使用してハンドパットで擦り取り、仕上げに水を含ませた布(ウエス)で拭き取ってください。自動洗浄機を使用する場合は、自動洗浄機に白または赤パッドを装備して清掃作業を行ってください。荒い目のパットを使用するとコーティング層が摩耗する可能性がありますので注意してください。クリーナーが床に残らないように仕上げに水拭きしてください。

- ※パットは軽度の汚れは白パット、中度の汚れは赤パットを使用してください。
- ※汚染物の上に布を置き、クリーナー希釈液またはアルコールを滴下し、数分間放置してから除去しますとよく落ちます。
- ※自動洗浄機が入らないコーナー部や壁際などは水をつけ、固く絞ったモップなどで床面を拭いてください。
- ③中性クリーナーで除去できない汚れは、エタノールを染み込ませた布で汚れを擦り取ります。
- ※汚れ落としにシンナーは使用しないでください。表面の変色などの原因となります。

## タイルカーペット

一般的なタイルカーペットの汚れの原因として、人の靴底に付着して持ち込まれる土砂や埃等が約半数を占めています。これを防止するためには出入口にできるだけ大きめの防塵マットを敷くことが大切です。それと同時に、防塵マット自体の汚れがカーペットの方に移行してしまうのを防ぐために、防塵マットの定期的なクリーニングも必要です。土砂等の汚れの80%はバキューム作業によって除去することができますので、日常の作業として掃除機がけを行なうことが重要ですが、汚れの程度が場所によって異なりますのでメンテナンス計画を区域別に立て、メンテナンス作業を実施してください。

### 日常管理

#### 【日常清掃】

#### 1. 真空掃除機によるバキューム作業

- a. 玄関出入口等の特に歩行量の多い所…毎日
- b. 2階以上エレベーターホール・廊下等の共用部分…1回/2日
- c. 2階以上の屋内…1回/2~3日
- d. 1階の室内…毎日

#### 2. スポット除去・しみ取り作業

発見したときに、すみやかに行ないます。

#### 【しみ取り】

しみはできるだけ早く発見し、最も簡易な方法で除去することが必要です。タイルカーペットのしみ取り作業では、最初にしみ汚れの性質を判別します。その上で使用するしみ取り剤を選定し、正しい技法によって取り除きます。ブラシでたたいたり、タオルやブラシで擦り取るやり方は毛羽立ちをつくり、しみが広がり、輪じみの原因となります。しみ取り作業にはしみ取り剤を多量に使用せず、丁寧に除去作業を繰り返すことが大切です。しみの取り方には次の方法があり、ケースによってこれらの方法を組合わせて行ないます。

#### 1. しみ取り剤をしみに作用させる方法

- a. スプレーする。
- b. ブラシを用いて湿す。
- c. タオルを用いて湿す。

#### 2. 簡単な器具(物理的)による方法

- a. ヘラ等で削り取る。
- b. ブラシ等で軽くたたく。
- c. 毛羽立ちが起きない程度に、タオルやブラシでこする。

#### 3. 吸い取る方法

- a. 乾いたタオルを用いる。
- b. 湿ったタオルを用いる。
- c. スポンジを用いる。
- d. ペーパーを用いる。
- e. 吸水型真空掃除機を用いる。

なお、タイルカーペットは弾性床や硬性床と比較し、しみ汚れは取りにくい材質の床材であるため、なるべくしみ汚れをつくらないようにすることが大切です。万一汚れができたなら、できるだけ早く除去する必要があります。

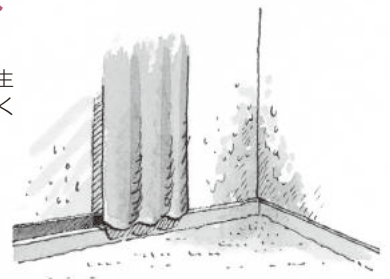
#### 【クリーニング作業】

タイルカーペットの場合は、ドライクリーニング方式が基本です。しかし資材・機材面で未解決な問題点があるため完全ドライ方式は無理としても洗剤、水は最小限に使用することが大切です。

### 使用上の注意

## 1 湿気は大敵

換気をよくし、結露を発生させない工夫を施してください。



## 2 めくれ、ほつれは専門業者に



タイルカーペットの弛み、めくれなどが生じた場合は、専門業者に連絡し、補修してください。放置しておくとならぬだけでなく、転倒事故の原因となります。特に階段部での弛みなどは、つまずきによる転落事故につながりやすいため、注意が必要です。

## 3 専用の洗剤で

メンテナンスの際はカーペット用の中性洗剤を使用し、使用後は完全に拭き取ってください。塩素系の洗剤を使用すると、パイルが変色することがあります。



注意

歩行頻度や使用状況などによりワックス塗布が必要になりましたらワックスメンテナンスを行なってください。コーティング層の部分摩滅が見られるようになった、あるいは日常メンテで清掃ムラが見られるようになった等の場合は、ワックスメンテナンスの開始をお勧めします。

※ワックス処理を行なった場合、未処理の場合よりも薬品(アルコール)に対する耐汚染性が低下する場合があります。

※ワックスを剥離する時、パッドは赤～青を使用してください。荒い目のパッドを使用すると表面の特殊処理層が摩耗する可能性がありますのでご注意ください。

4 薬品に注意

防虫剤、殺虫剤、消毒剤等を直接タイルカーペットに散布すると、パイルが変色することがあります。



5 まめに掃除機かけて



美観を維持し、安全に暮らすために、一日一度の掃除機による清掃をおすすめします。

6 落とし物に気をつける

針やピン等の金属片をタイルカーペットの上に落としたままにすると、手や足にささって危険ですので、すぐに取り除いてください。

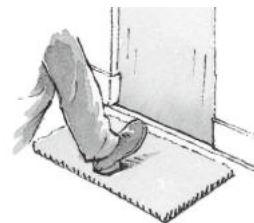


お願い

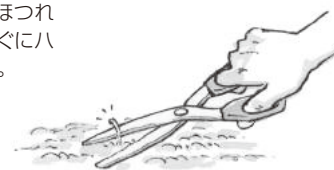
1 業務用スペースでは、日常メンテナンスとあわせて定期的なメンテナンスをおすすめします。



2 土砂の持ち込みなどが予想される場所では泥除けマットなどを出入りに設置し、室内への土砂の持ち込みを防いでください。持ち込まれた際には即座に除去するようにしてください。



3 パイルがほつれた場合、ほつれの伝染を防ぐために、すぐにハサミでカットしてください。



4 長時間直射日光があたる場所では変色する可能性があります。カーテン・ブラインドなどで日よけしてください。



5 汚れが付着した際には、汚れが広がらないように注意して即座に拭き取ってください。時間の経過とともに除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。



# フロアメンテナンス(汚染対策)

床材は、オフィス、学校、病院、工場等の床仕上材としてきわめて広範囲に使用されていますが、美しく仕上がった床材表面がある種の汚染物によって見苦しく汚染する場合があります。この現象は、物理的要因による汚染、化学的要因による汚染、物理的・化学的の両要因が複合して生じる汚染に分類できます。一度汚染してしまうと取り除くことが困難な要因も多くありますので、汚染させないように予防することが大切です。

## ビニル床材

汚染の種類	原因	汚染状態	対策
摩擦・キズによる汚染	外から持ち込まれた砂粒などにより、床材表面が摩耗し、傷付き、その凹凸部に汚染物質が付着します。		洗浄剤またはワックス剥離剤を用いて、ポリッシャーまたはブラシ等で汚れを取り除き、樹脂ワックスを塗布してください。強度な傷の場合は元通りに復帰することが困難となりますので、防塵マットなどを設置して外からの砂の持ち込みを防ぎ、日常のメンテナンスを十分に行なってください。
ヒールマーク汚染	ゴム製の靴のかかとで床材表面をこすった際にゴムの一部がこすり取られ、床材表面に付着し、汚染します。また付着したまま放置しておくとうゴム汚染となります。		洗浄剤またはワックス剥離剤を用いて、ポリッシャーまたはブラシ等で取り除いてください。カーボンの混合が多かったり、加硫の不十分な靴底に発生しやすい現象ですが、樹脂ワックスを塗布することにより軽減することができます。
化学薬品による汚染	化学薬品に浸されたり反応して、汚染を生じます。	 (濃硫酸による汚染)	薬品をこぼしたら、できる限りすみやかに除去してください。一度汚染しますと、除去は困難です。
染毛剤や医薬品(殺菌消毒薬・うがい薬)による汚染	染毛剤に含まれている染料や、ヨードを主成分とする殺菌消毒薬およびうがい薬が床材表面から浸透し、汚染を生じます。	 (染毛剤による汚染)	できる限りすみやかに除去してください。しかし、完全に汚染を除去することは不可能なので、このような薬剤を多用する場所では、濃い色の床材、柄物の床材を推奨します。
ゴム汚染	椅子、机、台車、脚立等の足がゴム製品の場合、含まれている成分(加硫助剤・老化防止剤・プロセス油)が床材表面に付着・浸透し、太陽光や蛍光灯の光によって発色して、褐色に汚染することがあります。靴のゴム底によるゴム汚染の場合は、動線状の汚染となります。		非汚染タイプのゴム製品に変更するか、ゴム製品以外の材質(ウレタン等)に変更してください。または机、脚立等の足には床材と接触しないよう、あて板などを敷いて保護してください。汚染した場合は、汚染部分の床材を張りかえる以外に方法はありません。
粘着テープによる汚染	施工時に床材を養生するために使用する粘着テープ(ガムテープ、布テープ等)によって、ゴム汚染と同様の汚染が生じることがあります。		アクリル樹脂系粘着剤のテープを使用してください。汚染した場合は、汚染部分の床材を張りかえる以外に方法はありません。

汚染の種類	原因	汚染状態	対策
接着剤による汚染	SBR系、クロロブレン系の接着剤を使用した場合、床材の可塑性抽出による接着力が低下、接着剤成分の移行による変色が発生する可能性があります。	 (SBR系接着剤による汚染)	床暖房下地や湿気の多い下地に施工した場合や、接着剤が過多であった場合に、発生しやすくなります。床材に合った接着剤を使用してください。誤った接着剤で施工した場合は、張りかえる以外に方法はありません。
下地による汚染	下地がアスファルト下地、防腐剤、防蟻剤を塗布した下地、改修の下地で黒のりの場合、床材に移行して床材表面を汚染させることがあります。	 (アスファルトによる汚染)	アスファルト下地、黒のりの改修、防腐剤、防蟻剤は完全に除去してから施工してください。汚染した場合は、張りかえる以外に方法はありません。
養生材による汚染	施工時に床材表面の汚れを防止するために、ベニヤ板、ダンボール紙を床材の上に敷きつめることがあります。この際に、湿気・圧着等でこれら養生材のアク(タンニン・リグニン等)が床材表面に付着・浸透し、褐色に汚染することがあります。	 (ダンボール紙による汚染)	ベニヤ板、ダンボール紙で養生する場合、床材に直接敷かずポリエチレンフィルムや養生シート等を敷き、その上に敷きつめてください。この汚染は、経時によって色が薄くなりますが、完全に消えない場合がありますので、汚染具合によっては床材を張りかえることとなります。なお、ワックスを塗布した床面にポリエチレンフィルムや養生シート等を敷く場合は、ワックスが完全に乾燥してから行なってください。
染料による汚染	チョーク、ペンキ、マジック、スプレー塗料等に含まれる染料が床表面に付着すると浸透して除去できなくなります。また、下地に墨打ちにする場合も、経時でシートを浸透して汚染する場合があります。	 (チョークによる汚染)  (下地からの移行)	ペンキ、マジック、スプレー塗料は使用しないでください。墨打ちに使用するチョークは、白色を使用してください。
外壁洗浄剤による汚染	外壁洗浄剤を放置しますと、取り込まれた希塩酸中の汚染物質により、汚染・変色する場合があります。	 (外壁洗浄剤汚水による汚染)	洗浄後の汚れた洗浄液は、きれいに洗い流してください。外壁を洗浄する場合は、水を大量に使用して洗い流しながら洗浄するか、床材表面を養生シートで覆い、保護して行ってください。

ビニル系床材の汚染については、インテリアフロア工業会(I.F.A)のホームページで「ビニル系床材の汚染対策」として公開されていますので、ご参照ください。  
<http://www.ifa-yukazai.com/attention/vinyl.html>

## カーペット床材

ゴムによる汚染	ビニル床材と同様に汚染性の高いゴムとカーペット床材が接していた場合、汚染することがあります。		非汚染タイプのゴム製品に変更するか、ゴム製品以外の材質(ウレタン等)に変更してください。または机、脚立等の足には床材と接触しないよう、あて板などを敷いて保護してください。汚染した場合は、汚染部分の床材を張りかえる以外に方法はありません。汚染は、床材が湿気を帯びていた場合特に発生しやすいので、ウェット方式でクリーニングした場合は、十分に乾燥させてから椅子などの移動家具を配置するようにしてください。
---------	--	---	---